

平成 30 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： 認知症高齢者グループホームさんりく

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 0370300196 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 三陸福祉会 | | |
| 事業所名 | 認知症高齢者グループホームさんりく | | |
| 所在地 | 岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91番地 | | |
| 自己評価作成日 | 平成30年10月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成31年1月28日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0370300196-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022 |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 平成30年11月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、多機能ホームと併設になっており、昔からの知り合いの方々といつでも会話や一緒にお茶を飲んだりと交流が持たれています。地域交流では、こども園、小・中学校の運動会や発表会の招待を受け観覧したり、地域合同での敬老会も開催され楽しく過ごされています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所を含む法人の各事業(特養、小規模多機能、デイサービス、ショートステイ等)は、東日本大震災で被災し、5年前に三陸の園としてこの高台に移転新築した。夏祭り・敬老会・防災訓練などは、法人事業所が合同で行い、地域の方々にも参加いただき交流の機会となっている。震災を教訓に、地域交流ホールは災害時避難所に指定され、備蓄倉庫に食料や寝具などを備えている。飲料水や生活用水も自家発電機により敷地内井戸から汲み上げ、確保が可能である。「地域と共に その人らしく」を理念として地域ニーズに積極的に対応しており、高齢者福祉の拠点として期待されている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : 認知症高齢者グループホームさんりく

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 玄関・ホール内に掲示し、職員が常に意識できるように努めている。 | 「地域と共に その人らしく」の理念をホールに掲示し、申し送り時に確認している。今年度から毎月職員会議を実施し、職員間で振り返りを行い理念の共有を図っている。“その人らしく”あたりまえの暮らしができる支援に努めている。 | 震災後の苦難を乗り越え、移転を経て定例職員会議を開催できるまでになった。職員間で振り返りや話し合いも出来ており、利用者が「ゆったり・たのしく・その人らしく暮らせる」介護の更なる充実を期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 学校行事(運動会)等へ招待され参加をしたり、毎年恒例となった当施設で開催される敬老会へ参加され地域の方々との繋がりが保たれている。 | 共に高台に移転した小学校、こども園との交流(運動会・学習発表会・体験学習など)が図られている。事業所内交流室で町内敬老会を開催した。大正琴のボランティアが来所したり、民生委員の会合を事務所で開くなど、地域との連携が広がってきている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域高齢者に役立つ取り組みは出来ていないが、今後話し合いを持ちながら取り組んで行きたい。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議メンバーは、地域の主たる方々で構成し事前に議題を決め取り組むようにしている。また、施設見学等もして頂き率直な意見を聞きながらサービス向上に繋げている。 | 会議では事業報告や意見交換を行い委員から助言を得ている。“夏祭り”は、併せて会議を設定し委員の参加を得たこともあり、大盛況に開催できた。委員から地区行事の紹介(招待)をいただき、交流の広がりが図られている。 | 運営推進会議にテーマを設け、例えば認知症に関する講話を盛り込みそれに相応しい方を講師として招へいするなど、会議の活性化について検討されることを期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 運営推進会議メンバーには、市の担当者も出席して頂いており、事業所の考え方や現場の実情は伝わっている。また、担当者の方から地域の高齢者状況を聞く等関係作りにも努めている。 | 行政出身の運営推進会議委員の方から様々な情報や助言を得ている。地域包括支援センター主催の地域ケア会議では、研修や困難事例の検討、情報交換が行われ、介護・保健・医療の連携の場となっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 施錠等は一切していない。常に自由に動き回れるように取り組んでいる。身体拘束でき「言葉による拘束」もある事から、職員が互いに意識しながら取り組んでいる。 | 身体拘束適正化検討委員会を設置し、指針を作成した。毎月事例検討会を行い、言葉による行動抑制を含め理解を深めている。起床時に転倒の心配がある利用者について、家族と話し合い同意を得てベッド柵を設けた事例がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 身体的虐待・言葉の虐待について、マニュアルを確認したり、職員が互いに注意を払っている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 現在、必要とされる利用者はいないが、勉強会を開きながら、必要とされた時に対応が出来るように努めていきたい。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時や介護保険改定があった際には、必ず家族へ説明し理解や納得が頂けるように努めている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 月に1度は家族が来所頂く機会を設け、利用者の状態を伝え、また家族の意見や要望も聞くように努めている。 | ホームでの様子を一行日誌で毎月家族へ届け、利用料支払いに来所される際に要望等を伺っている。家族からの話が基になり、くつろげる居場所作りとして、ホールに畳コーナーを設けた。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 利用者が心地よく生活出来るために常に考える機会を設け、提案があれば一緒に考え実行できるように心掛けている。 | 話しやすい職場作りに努め、必要な時は管理者が個人面談を行っている。「利用者が動きやすいケア」の在り方を職員と話し合い、試行的に実施しながら検討を重ねている。管理者は取得したキャリアマネジメントの資格を活かした事業所運営に努めている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 日頃の勤務状況を把握し、無理のない勤務体制にならないように配慮している。また、コミュニケーションを取りながら仕事にやりがいを持てるように努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者も現場に入り、知識や技術を指導していくようにしている。事業所内外での研修にも参加できるように努めていきたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 出来るだけ研修に参加できるように取り組んでいく。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | サービスを導入する前の段階で、何度か本人との機会を設け、会話をしながら不安や気持ちを受け止めながら信頼関係を築けるように努力している。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 申し込み時や契約時には、時間をかけてじっくり話を聞くように心掛けている。様々な思いを受け止め、少しでも不安や悩みの解決に努め信頼関係が築けるように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | グループホームに入所出来るまでの、他サービスの内容を説明し情報を提供しながら納得・安心して預けるように努める。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | その日によって行動や精神状態・身体状態が異なりますが、その都度本人の表情や言動・行動から思いをくみ取りながら信頼関係が作れるように努力している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 月に1度は必ず来所してもらい状態を見て頂くようにしている。また、家族が宿泊希望された時は快く宿泊して頂くように努めている。随時、家族と密に連絡を取り合いながら互いに協力し合っている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みのスーパーへの買い物や理美容室へ行ったり来所して頂いている。また、知人・親戚の面会もあり居室にて談話している。 | 馴染みの人や場の把握に努め、行き慣れた美容院に送迎し、馴染みの店での買物を支援している。家族と外出し、自宅付近のドライブや買物を楽しまれる方がいる。事業所への来所を促し、毎月来られる家族や入居している妻に面会し泊っていかれる方もいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者間でも気の合う、合わないがある為、座席の配慮をしている。また、ソファにて寄り添って会話されている場面も見られている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 身体機能の低下により、家族と相談し納得した上で特養へ入所してサービス利用が終了している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | コミュニケーションを図りながら思いをくみ取り、様々な場面で利用者自身が選択できるように工夫しながら努めている。 | 入浴時などの日常のささいな会話から利用者の思いの把握に努め、言葉での表現が難しい方は表情、仕草から汲み取っている。利用者が食事、テレビ視聴、体操など複数の選択肢の中から選べるように会話を工夫している。刺し子作品をバザーで販売された方や移動図書館を利用し読書を楽しむ方もいる。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 実調の際の聞き取りや意見書の特記事項等を参考に、本人とコミュニケーションを図りながら把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員は常に目を配りながらその時々状況を把握しながら、情報を共有し努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 「気づきシート」を活用し、モニタリングを行いながら介護計画の見直しを行っている。 | 日々の様子を居室担当者が「気づきシート」に記入し、毎月のカンファレンスで確認し合っている。半年毎に全員でモニタリングを行い、ケアマネがまとめてチェックし、介護計画を作成している。状況に応じ、その都度柔軟に見直している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 申し送りノートやケース記録を活用しながら職員間で情報を共有し実践に繋げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | その時のニーズに合わせ、家族と相談した上で職員間でも話し合い、臨機応変に支援できるように努めている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 商店街への買い物や病院、理美容室の訪問等協力して頂きながら取り組んでいる。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 全員の方が主治医が診療所の医師となっており、定期受診をはじめ状態によっては往診対応もして頂き、状態によっては医師と家族との面談も行われることもあり安心して生活出来ている。 | 1人の利用者を除き、かかりつけ医は入居前から何十年と診てもらっている地域の診療所医師となっており、家族同行で受診している。診療所の医師は、法人の特養に往診した際に、必要な時はホームに寄ってくれている。医療連携は密である。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 基本的に、受診介助は看護師が対応している。日々の状態を適切に医師に伝え、指示を頂くようにしている。また、職員は状態変化に気づいた時は直ぐに看護師へ報告を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は、定期的に面会を行い医療機関と連携を図りながら支援している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 事前に「看取り確認書」を記入して頂き、家族の希望等の把握に努めている。また、状態に応じ家族と医師の面談もあり、事業所が出来ることを理解して頂いた上で対応している。 | ホーム利用開始時に「看取りについての事前確認書」を説明し理解を得ている。緊密な医療連携の下で重度化、終末期対応を行っており、ターミナル期には毎日の様に医師が来所し、職員も安心して心強い。開所以来9名の看取りを行なっている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時や事故発生時の体制については「緊急連絡体制図」やマニュアルを作成し周知徹底を図っている。応急手当については、定期的に訓練をして行きたい。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人全体の防災計画のもと避難訓練を実施している。運営推進会議に合わせて行うときもあり、地域の方にも協力をお願いしている。 | 法人の避難訓練に運営推進委員や地域の方も参加し、夜間想定での訓練も行なっている。ハザードマップでは危険区域外にあるが、東日本大震災を教訓に、山火事などの自然災害も含めた総合的災害対策を整えている。近くにはバリアフリー化された地域避難所(小学校)がある。 | 東日本大震災を教訓として整備された体制、避難場所、備蓄倉庫等を基礎に、今後においても、有事・平時を問わず地域の防災対応拠点として機能されることを期待します。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員は、利用者の個々の生活を理解し受け止めながらプライバシーを損ねないように努めている。 | 利用者を人生の先輩として敬い、個性、特性を理解した上で、時には冗談を言って盛り上げ、雰囲気作りに努めている。入浴は1人で、トイレ利用は戸を閉めるなどプライバシーに配慮している。面会簿は1枚毎とし個人情報の保護を徹底している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | おやつや活動への参加など、その時々場面において声掛けを行い、表情等を見ながら意思を読み取るように心掛けている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 日々の利用者の状態を把握しながら、個々のペースに合わせて柔軟な対応に努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自分で衣類を選び、着られる方はタンスの中を常に整えて自由に脱ぎ着出来るようにしている。また、時期を見て衣類の整理整頓し季節に合った衣類を着て頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者の大部分の方が一緒に食事作り等を行うことが難しくなってきたが、園内で収穫された野菜等美味しく頂けるよう職員は工夫している。 | 献立は職員が作り、利用者も時々同行し地域のスーパーで食材購入をしている。ホーム脇の畑で、トマト・キュウリ・大根など栽培し調理に使っている。外食時にはレストランで好みの品を注文し楽しく食事している。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事摂取量や水分量を観察し記録しながら把握し、献立についても職員同士がバランスを考えながら提供している。また、毎月管理栄養士に献立表よみてもらいコメントを頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、声掛けを行い口腔ケアを行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックを行い、個々の排泄パターンを把握し定期的に声掛けしながらトイレ誘導を行っている。また、昼夜の排泄用品の工夫をしながら対応している。 | 職員の見守りで自分からトイレで排泄される方が4名いる。入居前は常時オムツ使用であった方が、布パンツ利用に改善された。夜間は十分な熟睡を大切に、紙パンツにパットとされる方が多い。居室でポータブルトイレを使われる方は1人いる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排泄チェックを行い排便状況の把握に努めている。乳製品の提示や下剤が処方されている方は、医師の指示通り服用し有無を確認している。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 入浴日を決めてはいるが、その時々状況によって強制はせず、日を改めて入浴したり時間を置くなど対応している。 | 週2回入浴が基本で、車椅子利用の2名は併設の小規模多機能ホームの機械浴としている。着替えの衣服を自分で選ぶなど介助の工夫を図り、楽しく入浴できる支援に努めている。入浴中はゆったりし話が弾む。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入浴後、昼食後、活動後など個々の状態を見ながら声掛けし休息を図っている。夜間についても個々の時間に合わせ、職員と団欒しながらゆっくり入眠できるように配慮している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 職員が常に確認できるように個々の薬事情報を回覧出来るようにしている。内服薬の管理は看護師が行い、誤薬防止のため必ず職員2名で確認し服用している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 定期的に市内に買い物に出掛ける方や季節によってドライブをしたり、園外散歩をしたりと個々の身体状態に合わせて気分転換が図れるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 定期的に市内に買い物に出掛けるや季節によってドライブをしたり、園外散歩をしたりと個々の身体状態に合わせて気分転換が図れるように努めている。また、お盆や正月等家族の協力のもと自宅へ帰省されている。 | 穏やかな日に、ホーム周辺を散歩し外気浴を楽しんだり、敷地内にある震災被害者を慰霊する観音像に手を合わせる方もいる。刺し子手芸用品や下着などの買物に出向いたり、ドライブし道の駅での外食を楽しんでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 入所者の中には、金額は少ないが自己管理されている方もいる。また、家族より「お小遣い」として事業所で預かり、外出時は預かり金で対応している。家族には毎月「金銭出納簿」「確認書」を送付し確認して頂いている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人より電話をかけたいなどの希望はないが、遠方にいる家族より荷物や手紙等届いた際は、職員が電話を掛け本人と会話ができるようにしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 照明については、落ち着いた漢字があり、室内温度も入所者に合わせ調整し、定期的に空気の入れ替えをするように努めている。また、室内も季節感を感じられるように装飾も工夫しながら心地よく過ごせるように努めている。 | 食堂兼ホールは台所に面しており、料理の様子が見え匂いや音が楽しめる。高台にあり、田や畑、林の四季の変化が眺望できる。ホールのテーブルで読書する人、太極拳のDVDに合わせて体を動かす人など思い思いに寛いでいる。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 食堂ホール、ソファ、お座敷等個々にお気に入りの場所で過ごされている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入所の際は、家族・本人の居心地の良い空間を作ってもらうように協力を頂いている。写真やお気に入り(ぬいぐるみ)など飾る事で安心できるように工夫している。 | ベッド・洗面台・整理ダンスが備えており、シンプルで整然とした部屋が多い。歩行に困難な2名の居室は、畳に布団とし安全面に配慮している。家族写真、色紙、ぬり絵などが飾られ温もりが感じられる。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設設備は、安全面を配慮した造りとなっている。その都度、入所者にとって環境面で問題が生じた場合は工夫しながら安全に生活できるように支援している。 | | |